

I 本校のミッション(使命、存在意義)

- 1 知的障害特別支援学校として、知的な障害のある児童生徒の自立と社会参加を目指した教育を行う。
- 2 岡山大学との連携の下、特別支援教育の教育課題に関する実践研究の成果を発信するとともに、各種の研修を行うことで、地域における特別支援教育のセンター的役割を果たす。
- 3 教育実践に関わる学びの場として、教育実習を通して、志を持った教員の養成に資する。

II 現状分析

1 授業改善・児童生徒理解

- (1) 児童生徒の実態や家庭を取り巻く環境は多様化している。適切な実態把握に基づく目標や支援方法の設定とともに、指導に関する専門性の維持向上や人材育成の継続的取組が必要である。
- (2) 教師主導から児童生徒が学習の主体となり、授業に参画し、対話を通して考えを深める授業実践の更なる工夫や授業改善が求められている。

2 教育研究・小中高一貫教育

- (1) 教職員は意欲的に職務に励み、日々の授業改善にも誠実かつ前向きに取り組んでいる。教職員間は協力的で同僚性も高い。当事者意識をもった学校経営への参画が求められている。
- (2) 学部内で連携協力しながら児童生徒の育成を行っているが、12年間のキャリア発達の視点をもって、家庭と協働しながらの継続指導が必要である。
- (3) 「チームで取り組む自立活動の指導」の共同研究を通じて、児童生徒を中心とするチームでの、先導的、効果的な自立活動の指導が求められている。また、研究を通して同僚性の更なる向上や教師の主體的な課題解決への参画も期待されている。

3 教師教育・教員研修

- (1) 岡山大学教育学部において、教職を目指す学生が5割程度にとどまっている。教職の魅力を実感できる教育実習の充実と、人権感覚を備えた特別支援教育への情熱を有する学生の育成が求められている。
- (2) 本校主催の現職教員研修(体験型教員研修、授業づくり研修会、研究発表会等)を充実させることで校内外の教師の特別支援教育における専門性の向上に資することが強く求められている。

4 保護者・地域連携

- (1) 保護者は協力的で、学校自己評価アンケートの結果、教育活動に対する評価は全体として肯定的である。児童生徒のキャリア発達を促す専門性の高い授業や支援、家庭と協働した取組などの努力が求められている。
- (2) 地の利を生かした教育活動や各種出前授業、附属学校園を含む大学との連携による体験活動の充実が、引き続き求められている。

5 環境整備・安全管理・業務改善

- (1) 児童生徒の学びやすさと安全を最優先した教室環境や、視覚支援を含む必要な合理的配慮の確実な引継ぎなど教室環境の見直し及び再確認が求められている。
- (2) 防災教育を含む危機管理体制の整備を進めているが、より実状に合わせた見直しや地域や保護者を含む組織的連携体制の推進が必要である。
- (3) 個人情報適切な取り扱いや情報機器等学校備品の管理など、事故を未然に防ぐ体制の整備が必要である。
- (4) 時間外勤務時間数は減少傾向にあるものの、会議や研究活動、教育実習生指導等の業務により、日々の授業準備時間の捻出に苦慮している現状があり、具体的な働き方改革の提案が必要である。

III 本校が目指す姿

1 学校教育目標

「小学部・中学部・高等部の課程を通して、調和のある一貫した指導を行い、児童生徒の全人的な発達を促し、主体的に社会生活に参加できる人間の育成を目指す。」

2 学校の姿

- (1) 家庭・大学・医療・福祉・労働・地域との連携の中で、児童生徒の自立と社会参加に向けた取組を支援する学校
- (2) 学習環境を整えた安全で明るい学校
- (3) 開かれた学校として保護者や地域、社会への情報提供と説明責任を果たす学校
- (4) 特別支援教育に関わる教員を志す学生を育てる学校
- (5) 各教員が専門性の向上を図り、地域における特別支援教育の先導的、センター的役割を果たす学校

3 児童生徒の姿

(1) 小学部「みんなといっしょに のびのびと」

基本的な生活習慣を身に付け、興味関心を広げ、意欲的に取り組む児童。

(2) 中学部「仲間とともに 生き生きと」

他者と関わりながら、生活経験を拡大し、主体的に社会参加しようとする生徒。

(3) 高等部「心豊かに たくましく」

目的達成に向け、課題を解決しながら、自分のもてる力を最大限に発揮し、取り組む生徒。

IV 本年度の学校経営目標・計画

1 自立と社会参加を目指した教育の推進

(1) 児童生徒の「思い」「願い」を大切に、主体的に活動できる教育の推進

- ① 個々の実態や本人の願いに基づく、「個別の指導計画」の作成及び指導・支援と学習評価の実施。
- ② 児童生徒の思いを引き出し、主体的に参画し、対話の中で学びを深めることができる学習活動の推進。
- ③ 児童生徒の願いを主体とした「チームで取り組む自立活動の指導」の一層の充実。

(2) 大学・家庭・地域・関係機関との連携によるキャリア教育の充実

- ① 家庭と協働した12年間の連続性・系統性のあるキャリア発達支援の推進。
- ② 公共施設や近隣の商業施設などの地域資源や専門的な外部人材を活用した教育活動の更なる推進。
- ③ 居住地校交流や附属学校園、高等学校、他の支援学校との交流及び共同学習の積極的な実施。

(3) 児童生徒の学びを深める授業力・専門性の向上

- ① 授業研究や相互授業参観、校内外の体験型教員研修、自主研修等を通じた授業実践力の向上。
- ② 児童生徒の主体的な取組を促し、児童生徒同士の学び合いの学習効果を高める ICT 活用の促進。

2 安心安全で健康的な学校生活の充実

(1) 居心地の良い教室環境

- ① 合理的配慮（視覚支援含む）の確実な引き継ぎと、情報量や安全に配慮した教室環境の整備。
- ② 多様性を認め合う温かい集団づくりと児童生徒の自己肯定感・自己有用感の醸成。

(2) 命を守る教育の推進と自己対応力の醸成

- ① 各種マニュアルの見直しによる危機管理体制の整備。
- ② 当事者意識を高める健康・安全・性教育の推進。

(3) 生き生きとした活力ある職場づくり

- ① コンプライアンスの遵守と同僚性ある職場づくり。（認め合い、支え合い、助け合う職場）
- ② 主体的かつ連携した分掌業務の遂行と公務の情報化及び効率化による計画的・効率的な業務の遂行。

3 特別支援教育の充実に貢献する取組の推進

(1) 大学と連携した取組の推進

- ① 授業評価を踏まえた授業改善による、より先導的で質の高い授業実践。
- ② ニーズに即した「授業づくり研修会」の開催や積極的な「体験型教員研修」の受け入れ等、教職員が相互に学び合える場の提供。
- ③ 附属学校園や地域の学校園と連携し、各校のインクルーシブ教育システム構築の推進に寄与。
- ④ 特別支援教育のやりがいや教職の魅力を実感できる教育実習の充実を通して、教職を志す意識の醸成。
- ⑤ 日本学術振興会 科学研究等、大学と連携した先駆的な実践研究の推進と研究成果の還元及び積極的な公表。

(2) 積極的な情報発信

- ① 本校の教育活動の取組状況やその意図、教育の特色等を SNS で積極的に情報発信。
- ② 特別支援教育課題に対応した実践的な校内共同研究の推進と研究成果の積極的な公表。